

第 11 回 鶴川中央小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会 議事要旨

開催日時	2025年7月28日（月） 9：30～11：00	
開催場所	町田市立鶴川第四小学校 家庭科室（ウェブ会議併用）	
出席者 （敬称略）	委員	岩永委員、嶋田委員、沼尻委員、柄澤委員、増田委員、竹村委員、大隅委員、 田中委員、仲村委員、浅沼委員、◎鰺坂委員、○高橋委員 （◎会長、○副会長）
	事務局	指導課、教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、 保健給食課、教育センター、防災課
傍聴者	0名	

議事内容（敬称略）

1 第 10 回推進協議会の振り返りについて

新たな学校推進課 （資料 1 説明）

委員 「町田市自体は今、年少人口がすごく増えている自治体で、政令指定都市を除くと」云々と書いてあるが、町田市のすぐ隣の相模原市や川崎市、横浜市などと比べたものではないのが気になった。

また、市内でも南町田などは子どもの人口が高齢者の人口の5倍ぐらいになっているところもあるが、鶴川六丁目などは高齢者が子どもの人口の5倍ぐらいいて心配している。

つまり、町田市は年少人口がすごく増えている自治体だというのは、データとすれば間違いではないと思うが、地域で見ていくとそうではないと思っている。

2 報告事項

新たな学校推進課 （資料 2－1－1 説明）

校歌制作者 校歌制作を担当いたします田代です。

今回、私が作詞、作曲を制作していくというよりは、子どもたちと一緒に一つの作品をつくっていくという大きなテーマを当初からいただいており、すごくワクワクしていた部分と、少し不安だった部分がありました。

結論から言いますと、すごく質の高い、充実した取組が今日まで行われてきたという感想があります。それは地域の方や児童、卒業生の皆さまが本当に一生懸命、力を貸してくれた結果だと思っていますので、様々な意見を集めてくださった皆様に感謝を申し上げたいと思います。

（資料 2－1－2 説明）

（鶴川中央小学校校歌案鑑賞）

委員 最終的にいい作品が出てきたことで、すごく胸が熱くなるというような感覚があり、本当にいい歌だなと思って聞いた。子どもたちが歌いやすいように色々なことを考えていただいて、曲調も最初のほうは、私たちが小学校のときに歌っていた校

歌に似ており、Bメロ、Cメロからは、今どきの感じがちょっと出てきていて、子どもたちが聞いたらワクワクするのではないかなと思った。

ただ、最後の「われらの鶴川中央小で」の歌詞の「われら」という一人称が昭和感に戻ったかなという気持ちもあり、「われ」という言葉は、どちらかという内側になる言葉だなと思っていて、ここを「みんなの鶴川中央小で」と変えると、鶴川中央小のもう少し外にも目を向けられる感じになるのかなと思った。

委員

子どもたちは喜んで歌うのではないかなと思った。

現在の校歌は、地域性の違う者が一緒になって新しい一つの学校ができているので、みんながうまく地域性の違いを乗り越えて仲良くしていけるような学校をつくりたいという思いを作詞・作曲者に伝え、今のような校歌になったと聞いた。今回の校歌にも、友情といったテーマが入っているので、大変良かったなと思っている。

「歴史を重ねて」の歌詞について、「統合による歴史を重ねて」と説明があったが、「地域の歴史」という意味も含めて説明いただく方が、地域の方々には受け入れてもらいやすいと思う。

なお、「ぼくら」という歌詞にすると、女の子たちは「わたしたち」と言うから「ぼくら」じゃないよと言うかもしれないので少し気になった。

委員

すごく爽やかな歌詞で、メロディーもすごく素敵な曲調であったが、鶴四小の校歌の好きなところで、「鶴四 鶴四 鶴四のなかま」というところがあり、誰が聞いても一発で、ここは歌えてしまうような歌詞があるとよかったなと思った。

委員

説明を聞いて、やっぱりうまくまとめられていて、いろいろな気持ちが入っていて、大変にすばらしい校歌ではないかなと思った。細かいところは特に修正する必要はないと思った。

委員

うまい具合にお互いの学校のいいところを取り入れながら、解け込んでできている歌詞かなと思った。

特にいいなと思ったところは、「ぶつかり合って おこったって 心通わせて」というところ。子どもも、大人も、多少けんかがあっても気持ちをお互い伝えて、それを納得、理解して、絆は深くなっていくと思う。子どもたちにも、地域の方々にも、こういう意味合いがあって、歌詞ができたということを伝えられたらいいと思った。

委員

校歌を子どもが伴奏する可能性もあるかなと思うが、それも想定されているのか。音階が低いところと高いところがあり、子どもの指が届くのかと思った。

校歌制作者

子どもが伴奏する想定でつくっているつもりである。高学年ぐらいで伴奏できるといいなとは思っている。

その他、今いただいたご意見にお答えできる部分は答えていきたい。

「われらの鶴川中央小で」のところが「みんな」でもいいというところは、自分も思っていて、歌い比べたときに、フレーズの最高音が「ん」になるため、歌い方が結構難しいかなと思った。教材として考えたときには「われら」が良いのではと考えている。

「歴史を重ねて」の部分だが、聞く人によって色々な捉え方で聞いてもらいたいな

と思ってこの言葉を選んだので、ぜひ子どもたちに紹介するときは、そのように添えていただけると、より深い作品として歌い継がれていくのではないかと考えている。とてもありがたいご意見である。

「鶴四 鶴四 鶴四のなかま」のような分かりやすいフレーズの繰り返しは考えたが、鶴三小の児童の中には校名を入れてほしくないという意見もあり、今回、この学校の名前の扱いをどうしようかというのは、最後の最後まで本当に悩んだ。校長先生方からもご意見をいただき、最終的に「鶴川中央小で」という歌詞を入れることでまとめている。確かにもう少し何か分かりやすい部分がつくれたらとは思ったが、最大限検討した結果がこれということで受け止めていただけるとありがたい。

「ぶつかり合って おこったって 心通わせて」の部分は、自分もすごく好きなフレーズで、いつも心がけていること。やはり自分の気持ちも大切にしてほしいなという想いがある。最近、争いを避けるために自分の気持ちを引っ込める子がすごく多いと感じているので、鶴三小の校歌を作詞して下さった谷川俊太郎大先生に感謝するところで、「おこる」というフレーズを大胆に入れていて下さったところが、このフレーズにつながったのかなと思っているので、心通った関係がたくさん芽生えるといいなと思っている。

委員

校歌に校名が入っていないことについてだが、例えば鶴川第一小学校は当時、鶴川地区にたった1校だけだったので、校歌に校名を入れる必要がなかった。今はこんなにたくさん学校があるので、校名は入れておいたほうがいいと思った。

また、小学生が歌いやすいというところまで考えた上での作曲で、すばらしいなと思った。

校歌制作者

ありがとうございます。

それでは、委員の皆さまのご意見を踏まえて、もう一度聞いていただいて終わらせていただく。

(鶴川中央小学校校歌案鑑賞)

新たな学校推進課 (資料2-2説明)

会長

(資料2-3説明)

委員

鶴四小でも閉校前の12月に校舎内見学会を実施するとあるが、どんなことをするのかとか、時間帯など伺えればと思う。

副会長

このイベントは、日程が12月27日の土曜日の午前中の開催を考えている。あくまでも校舎内、学校の敷地内の見学会である。実際に校舎に入ってもらい、懐かしいものを見て、写真なんかを撮りながら当時を懐かしんでいただくというものである。時期については、冬休みに入り児童のものが全てなくなった状態でセキュリティーのことも考えて、この日程を予定している。

委員

夏季休業期間中に行う、各家庭での通学経路の検討だが、春と夏では暑さが全然違う。暑さ対策として春や秋はこの道を通るが、夏はこの道を通るのは嫌だなとか、

日傘を差して通学しなきゃならないとか、そんな声が出てくると思う。

会長

今、実際に日傘を持っている子どもや、首に冷たいものをかけてくる子どももいる。夏場は帽子も結構かぶるようになっているので、今後は日傘も必要かなと思う。

防災課

(資料2-4説明)

新たな学校推進課 (資料2-5説明)

委員

鶴四小の2年生か3年生ぐらいの子で、例えば真光寺一丁目辺りに住んでいる子の場合、バスに乗って通学をすると、平和台入口で降りることになるが、平和台入口からは鶴三小に行くよりも、鶴二小に行くほうが近い。鶴四小学区の子が鶴二小に通うことは認められるのか。

新たな学校推進課 鶴四小の在校生については、特例制度として、隣接校である鶴一小と大蔵小に受け入れ枠がある場合に通うことができるが、鶴二小は鶴四小の隣接校となっておらず、原則通うことはできない。確かにバスで行った場合、平和台入口で降りると鶴二小に近いとは思いますが、学区はバス停とは別の考え方で整理している。

委員

9月の協議会は校章のことが中心だと思うが、新校舎の設計に関することについて、話し合う機会をつくってもらえるとありがたい。

新たな学校推進課 設計の細かいところまでをこの協議会の場で話し合うかどうかについては、検討させていただくが、進捗状況については、改めてご報告をさせていただき、ご意見を伺っていく。

施設整備については、2022年頃、基本計画検討会を設けていた際に、皆さんにもワークショップの中で、校舎配置や実際に子どもたちがどこを通ってくるのかを想定して動線を考えるなど、いろんなパターンについて図面を並べて議論してきた。

そこでの意見を踏まえながら設計を進めており、学校とも様々協議しながら進めているので、今後どのように皆さんと協議していくかについては、持ち帰って検討したいと思う。

委員

新校舎については、特に現場で働いている先生方の意見も取り入れていてもらいたいと思っている。

委員

関連で言うが、小学生ではガラス窓を割ることがあると思う。オーダーメイドの窓ではなく、できるだけ既成品の窓でデザインをやるように注文してほしい。

会長

(閉会のあいさつ)